令和６年１２月６日
（２０２４年）

保護者の皆様

吹田市立山田第一小学校
校　長　速水　素子

令和6年度　全国学力・学習状況調査の分析について

本年度の4月に6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1　教科に関する調査の分析

(1)国語《概要》

本校児童の平均正答率は全国平均値よりやや下回る傾向でした。「知識・技能」にかかわる領域の正答率が全国値をやや上回る一方で、「思考力・判断力」にかかわる領域、「書くこと」「読むこと」が全国値を下回り課題が見られました。

《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くこと

・全体的に全国値をやや下回る結果でした。「資料を活用して自分の考えが伝わるように工夫すること」については、無回答率も全国値を上回り、課題が見られました。

書くこと

・「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことは、全国値を大きく下回りました。ここでも無回答率が高く、課題が見られました。

読むこと

・「登場人物の相互関係や心情について描写をもとに捉える」「人物像を具体的に想像する」ことは、全国値を下回りました。
・「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」ことは、全国値をやや下回りました。
・出題の後半にあった「読むこと」の設問は、選択式であっても無回答率が全国値より高く、1割を超えていました。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

・「漢字を文章の中で正しく使う」「話し言葉と書き言葉の違いに気づく」ことは、全国値をやや上回っていました。
・「文の中の主語と述語との関係をとらえる」ことは、全国値よりやや下回っていました。

今後の国語の改善点について

設問の分析から、今回「読むこと」「書くこと」の正答率が全国値を下回っていることは、問われていることの理解や設問の「読み取り」に課題があるのではないかと考えています。また、設問の後半になるにつれて正解率が下がり無回答率が高くなることから見ても、「長文を読み進める」ことに課題があると考えられます。そこで、今後の国語学習の改善点を以下のようにまとめました。

○朝の読書タイムを活用して、長い文章（物語や説明文）を読むことに慣れる活動に取組みます。
○朝の読解タイムを活用して、文章の中から大切な言葉を抜き出すような学習や、「自分の考え」を短く書き表す学習を日常的に続けていきます。
○毎日の国語の授業のなかで、文章の要約やあらすじをつかむ学習活動を意識して実践します。
○言葉の学習や辞書引き等を積極的に授業に取り入れて語彙を増やし、考えを短文で書き表す学習に取組みます。
○設問の意味を理解し、問われていることを自分で明確にする力がつける必要があります。各教科で児童が問われていることをじっくり考え、最後まで自分で考えることができるよう授業改善をしていきます。
○無回答率を減らすため、低学年のうちから課題を最後まであきらめずにする意識づけをしていきます。

以上のことを学校全体で進めていきます。今後も、どんな児童も取組みやすく、「できた」「わかった」という達成感が得られるような取組を実践し、楽しい国語の学習ができるよう工夫していきます。

（2）算数《概要》

本校児童の平均正答率は全国平均値をやや上回る結果でした。ほとんどの領域の正答率が全国値よりやや上回る結果になっていました。「データの活用」の領域でやや下回る結果でした。また、全体としては観点でいうと「思考・判断・表現力」を問われる設問で、正答率が全国値同様本校でも低い傾向があり、課題が見られました。また、全国値より無回答率も高く、課題が見られました。

《各領域における成果と課題》

数と計算

・「小数の除法」「四則計算の性質の理解」については、全国値をやや上回っていました。また、計算問題では無回答率が少ない傾向にありました。「問題場面の数量の関係を捉えて式に表すこと」「数量の関係を□を用いた式に表すこと」「表から必要な情報を読み取って式に表し、条件に当てはまるかを判断すること」については、全国値をやや下回りました。

図形

・立方体や円柱、五角柱など、「様々な立体の性質を理解する」ことについては、平均して全国値とほぼ同じでした。「様々な立体を組み合わせた、条件のある立体の体積を求める」ことについては、全国値よりやや上回っているものの、正答率が低く課題がみられました。

変化と関係

・「速さと道のりと時間の関係を理解して考える」ことについては、全国値をやや下回りました。
・特に「速さが一定である場合に、道のりと時間の関係について考察する」ことについては、記述式問題であったためか、正答率が低く課題が見られました。

データの活用

・「円グラフや簡単な表から必要な情報を読み取ること」は、全国値を上回っていました。
・「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、記述すること」「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って判断する」ことについては、全国値をやや下回り課題が見られました。

今後の算数の改善点について

全体的に知識・技能面については、これまで学校で取り組んできた基礎的な取組の成果が出ていると考えます。今後も継続的に取り組んでいきます。しかし、思考・判断・表現力については、全国同様に正答率が低く課題が見られます。特に文章問題では何を求められているのか算数的な読解力に苦手意識が見られます。また、じっくり考えて記述して答える設問についても同様の傾向が見られました。

そこで、今後の算数学習の改善点を以下のようにまとめました。

○「図形」領域、「変化と関係」領域については、系統性を意識して各学年で学び残しのないよう指導していきます。特に「図形」の体積、「変化と関係」の速さについては、各学年で理解を促す工夫や習熟に時間をかけるなど、重点的な指導をしていきます。

○「データの活用」の表やグラフの見方については、社会科や総合的な学習なども含め様々な学習場面で意識的に指導していきます。それぞれの学習で具体的な課題を解決するため、ここで必要な情報はなんなのか、情報を意図的に取捨選択する場を設定して丁寧に指導していきます。
○文章問題では、ここで分かっていることは何なのか、なにを聞かれているのかなど、どのように解決の見通しを立てるのか、児童が自力で考えることができるよう指導をしていきます。
○文章－図－式 という具体から抽象へ、抽象から具体へという3つのつながりを児童に意識させながら指導していきます。具体的な文章からすぐに抽象的な式へいく前に、間をつなぐ図をかくことの有用性を感じさせながら指導していくことを大切にします。

以上のような具体的な取組を進めていくとともに、算数が嫌いな児童をつくらないためにも、教師主導の教え込みをできるだけ避け、児童の素朴な考えを大切にしたり、算数的な考えを児童から引き出したりする授業づくりを、学校全体で取り組んでいきます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

(1)学習環境・生活環境について

生活について

・「毎日朝食を食べている」と肯定的に回答した児童は、全国値よりやや高い傾向にありました。また、「まったく食べていない」と回答した児童も、全国値より低い傾向にあります。
・「毎朝同じ時間に起きる」「毎日同じ時間に寝る」「毎日朝食を食べている」と肯定的に回答した児童は、全国値より高い傾向にありました。
・「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、PC やタブレットなどの ICT 機器を学習勉強のために使っていますか」という質問に、「全く使っていない」「30分以内」と回答した児童は、全体の 6 割をこえており、全国値より高い傾向がありました。一方で「3 時間以上」と回答した児童は少ないながらも全国値より高い傾向がありました。
・「普段 1 日当たりどれぐらいの時間、テレビゲーム(PC・携帯式ゲーム・スマートフォン含む)をしていますか」という質問に、「4 時間以上」と回答した児童が3割程度と全国値より高い傾向がありました。これは動画視聴の時間でも同じ傾向があります。また、タブレットやスマートフォンなどを持っていない児童は少ない傾向があります。
・家庭学習の時間についての質問では、家庭学習をしている児童の数値は全国とあまり差はない一方で、「まったくしない」と回答した児童は全国値より高い傾向がありました。

学校生活について

・「学校に行くのは楽しい」と強く肯定した児童は全国値より大きく上回っていました。「どちらかというと楽しい」も入れると、ほとんどの児童が肯定的な回答をしていました。
・「友達関係に満足している」と肯定的に答えた児童は全国値より高い傾向がありました。
・「普段の生活でしあわせな気持ちになることはどれぐらいありますか」という質問では、「よくある」と強く肯定した児童が全国値より高い傾向がありました。「ときどきある」も含めると、ほとんどの児童が日々しあわせを感じながら生活していることがわかりました。
・「先生はあなたの良いところを認めてくれると思うか」という質問については、ほとんどの子どもが肯定的に回答し、全国値を大きく上回っていました。

学習について

・「5年生までに受けた授業で、PC・タブレッドなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に、「毎日」、「週3回以上」と回答した児童が全国値より高い傾向にありました。
・「授業や学校生活では、友だちや周りの人のことを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決にとりくんでいますか」という質問では、ほとんどの児童が肯定的に回答しており、特に強い肯定が全国

値を大きく上回りました。
・「自分とちがう意見について考えるのは楽しいと思いますか？」という質問では、肯定的意見は全国値と同じぐらいの傾向にありました。

自分自身について

・「自分には、よいところがある」と肯定的に回答した児童は、全国値より上回っていました。とくに「とてもそう思う」と強く肯定する児童が多い傾向にありました。
・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と、ほとんどの児童が肯定的に回答しました。
・「人が困っている時は進んで助ける」と肯定的に回答した児童は、全国値をやや下回っていました。しかし、積極的に助けると強く肯定した児童は全国値より高い傾向がありました。
・「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答した児童は、全国値をやや上回りました。
・「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思う」と肯定的に回答した児童は、全国値をやや下回っていました。しかし、是非してみたいと強く肯定した児童は全国値より高い傾向がありました。

児童への生活・学習アンケートの結果について

・生活については、各家庭の協力で規則正しい生活を送れていることがわかりました。一方で、放課後にスマートフォンやタブレットをゲームや動画視聴に長時間使用している児童が多いこともわかりました。このような児童のスマートフォンやタブレットの使いすぎは、健康上の悪影響だけでなく、依存症になると児童の脳への悪影響も様々な研究で指摘されています。デジタルシチズンシップ教育を引き続き進め、家庭とも協力しながら、適切な使い方について指導していきます。

・学校生活については、どの項目も昨年にくらべて肯定的な回答が増えており、充実した学校生活を送っている児童の様子がうかがえました。教師と児童の良好な関係を維持しながら、引き続き子どもたちにとって有意義で楽しい取組を各学級や学校全体で実施していきます。

・学習については、昨年度同様にGIGAスクールで導入されたタブレットを日常的に使っていることがわかります。引き続き効果的にタブレットなどのICT機器を学習の適切な場面で活用し、児童のICTスキルを高めていきます。また、協働学習などで人と協力することには積極的な半面、自分と違う意見には少し消極的になる傾向もみられました。多様な意見が出ること、違いがあることのすばらしさを実感できるような授業や行事の取組に努めていきます。

・自分自身について、本校の児童の自己肯定感は全国値より高い傾向でした。コロナ禍が終わり、昨年度より学習の制限がなくなり、人とかかわる様々な取組が復活したことも影響しているのではないかと考えます。引き続き、人とのかかわりを通して達成感や自己有用感が持てるような取組を、学校全体で進めていきたいと思います。
　また、困ったことを大人に相談できると肯定的な回答は昨年度より高くなっています。引き続き困っている児童の把握に努め、きめ細やかな声かけをしながら、児童が相談しやすい環境づくりに努めていきます。

3　おわりに

今回の全国学力・状況調査を受けた6年生は、小学校生活の大部分をコロナ禍の中で過ごし、行動制限や活動制限を受けて育ってきました。児童質問紙の回答には、その影響も少なからずあるはずですが、今回の結果からは、逞しく健やかに育つ児童の姿が垣間見える結果となりました。これも、各ご家庭の学校教育についての理解と協力があってのことだと思います。この調査の結果を踏まえ、教職員一同、より質の高い教育活動を目指し、精進してまいります。ともに児童の教育に携わるパートナーとして手を携えてまいりたいと思いますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。